

2019年度 認定こども園進徳幼稚園自己評価結果報告書

1. 本園の教育目標

人間性を豊かに育て、幼児期に必要な様々な経験を通して、心身ともに健全でたくましい子どもが育つよう3つの教育目標を掲げている。

1. げんきであかるい子
2. こころのやさしい子
3. よく考え、工夫し、表現する子

2. 重点的に取り組んだ目標・評価

新教育・保育要領に基づき子どもの興味関心に着目した子ども主体の保育計画の立案をすすめた。日々の保育の実践、評価、改善を循環させることで保育内容の向上に努めた。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価 A…達成できた B…概ね達成できた C…概ね達成できたが課題が残る D…努力が必要

評価項目	取り組み状況	評価
幼保連携型認定こども園教育・保育要領の改訂内容の理解を深め、保育計画の立案に努める。また、PDCA サイクルを行うことで保育内容の向上に繋げる。	全職員が改定内容に添った保育計画の立案に努めると共に、保育の振り返りを行うことで、自己及び学年運営の向上がみられた。しかしながら、PDCAが行われた記録のとり方には課題が残った。今後も見直しを重ね向上に繋げていく。	B
0歳児から5歳児までの発達や学びの連続性を意識した保育を目指し、園内研究保育を実践する。	本年度は「体幹を育てる運動遊び」を年間研究テーマに掲げ、学年ごと、成長段階を踏まえた運動遊びを積極的に取り入れた。研究保育や報告会を重ね研究結果を全職員が共有することで、発達の繋りを振り返ると共に、一人ひとりの育ちに注目することが出来た。実践の成果を更に深めるためにも、次年度も同研究テーマに取り組んでいく。	A
多種多様な保育ニーズを必要とする園児一人ひとりの安定した生活保障のために、保護者と連携し、共に課題改善を目指す。	保護者とのやりとりの中で、一部の方には本園の目指している保育や考えなどが伝えきれていないことが見えてきた。今後は相互に理解し合える関係を深める為に、日頃からのコミュニケーションや説明機会を増やすことに加え、伝え方の改善にも努めてく。	B
園児の安心・安全な生活保障のために、各種マニュアルを改善させると共に、内容、対応について全職員が理解を深め同じ意識で臨む。また、緊急時の対応についてはくり返し訓練を行う。	各担当を中心に研修などで得た知識や情報を基にマニュアルの検討・研究・改善に努めた。これらの経験が個々の意識改革を高め、個別に訓練を積む職員も増えた。そしてそれは園全体の意識の向上にも繋がった。今後も引き続き緊急時に適切な対応ができる体制づくりを目指す。	A

4. 自己評価結果と分析

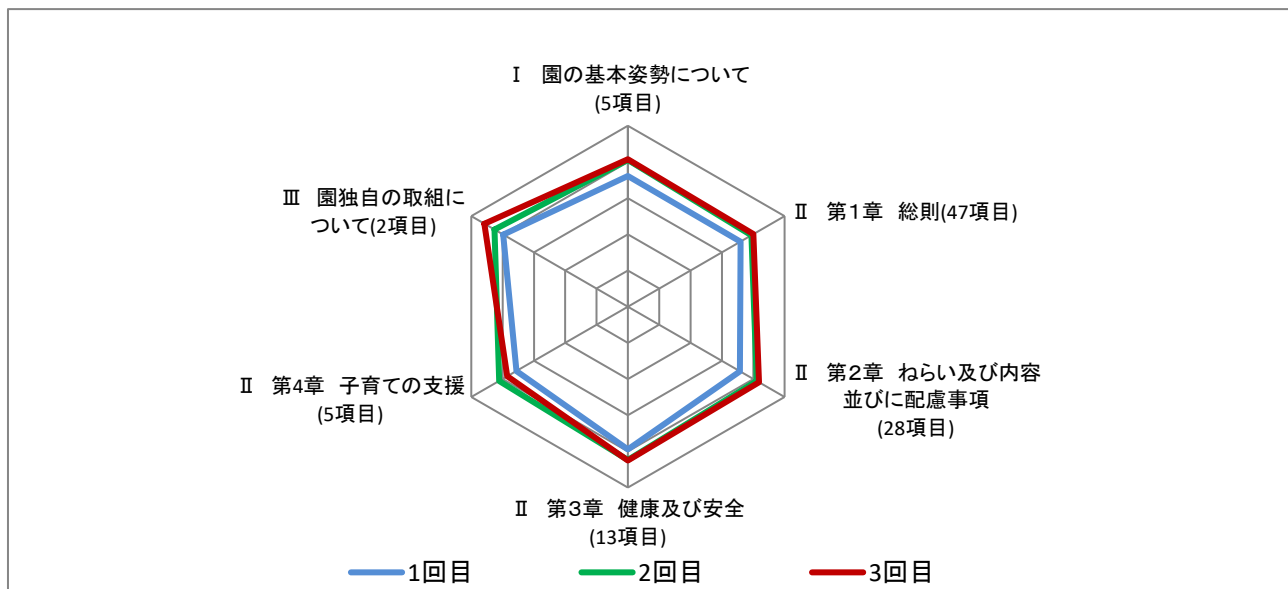
- ・評価方法

各職員が各自自己評価を行い、全体の集計を出す。

- ・分析

1 回目に評価が低かった項目については職員が意識して取り組んだ結果、理解が進んだ。

しかしながら、未だ評価の低い項目もある。これらに取り組むべき課題とすることで改善が進められる。



5. 今後取り組むべき課題

新教育・保育要領に基づく保育計画の実践	新教育・保育要領の内容理解を深め、昨年度の課題解決を目指した子ども主体の保育計画の立案をすすめる。その上で実践、評価、改善の過程を記録に残し、自己の振り返りと園全体の保育向上に活用していく。
保護者との相互理解	新教育・保育要領に基づく、「子ども主体の保育を目指すこと」を目標とする本園の保育について、全ての保護者から理解が得られるよう、説明責任を果たし、わかりやすい形で発信する。
自己研鑽による職員の資質向上	自己評価につながる各種自己チェックシートを作成し、チェック、自己分析、改善のサイクルを確立することで、職員自身の資質向上に繋げる。

6. 学校評価評議員会による意見

- ・前年度の取り組みについての課題・問題点を解決するために、職員がまずは自分の手の届きそうな目標を掲げ、具体的な手立てのもと実践し、自己観察の結果について指導助言を受けるシステムは素晴らしい。
- ・危機管理マニュアルを見直し冊子にまとめたことは高く評価されることである。しかし作成で留まらず、訓練時には常に活用すると共に改善点があれば、加筆・削除・修正しながら実際に使える形にしていくとよい。
- ・学校評価に関して職員による自己評価及び保護者による外部評価が適切に実施されている。次に、結果を公表することで課題を明確にし、課題改善を次年度の重点目標に設定することで職員の意識改革に繋がっている。そのことが園の特色となり、良い流れになっている。

7. 財務状況

会計処理についても適切に処理されている旨の報告を公認会計士より受けている。